

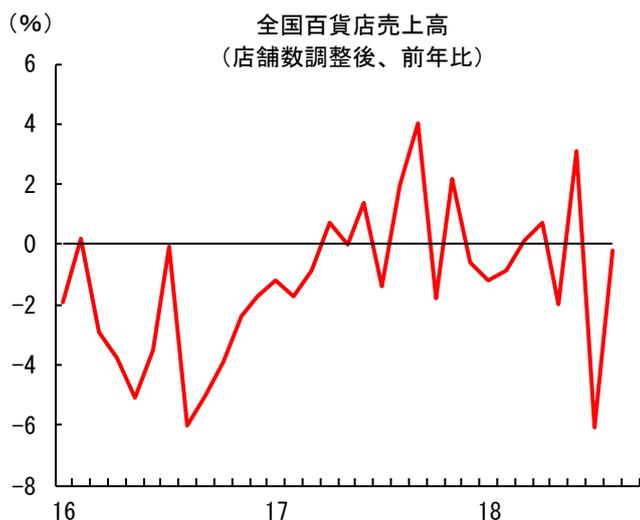
# Economic Indicators

発表日:2018年9月21日(金)

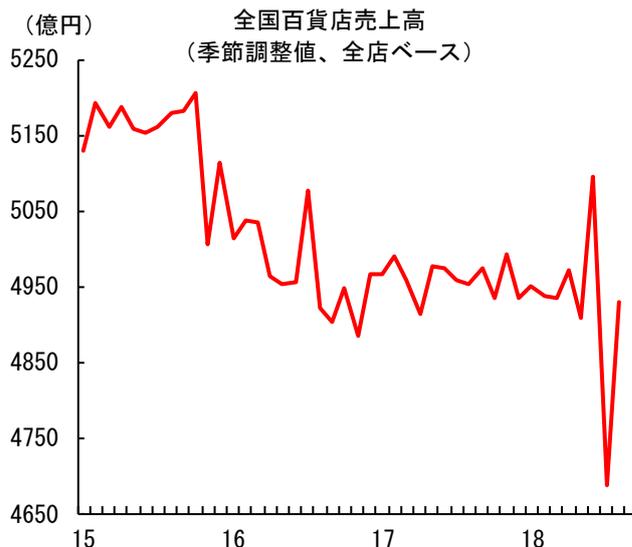
## 百貨店売上高(2018年8月)

～均せば横ばい圏。9月は自然災害の影響で再び落ち込む可能性大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)



(出所)日本百貨店協会「全国百貨店売上高」



(出所)日本百貨店協会「全国百貨店売上高」

(注)季節調整は第一生命経済研究所

### ○7月の落ち込みからは持ち直したが、均せば横ばい

日本百貨店協会から発表された18年8月の全国百貨店売上高は前年比▲0.2%(店舗数調整後)となった。7月は前年比▲6.1%と大幅に落ち込んでいたが、8月は前年比で横ばい程度まで戻している。季節調整値(筆者試算)でも、7月に前月比▲8.0%と急減した後、8月には前月比+5.2%の増加となっている。7月は、セール前倒しの反動に加え、西日本豪雨や月末の台風等の異常気象による下押しもあったことから大幅に落ち込んでいたが、8月はそうした悪材料が解消されたことでリバウンドした形になっている。

もっとも、8月は前月比で大幅に増加したとはいえ、水準(季節調整値)で見れば、セール前倒し前である5月とほぼ変わらない。セール時期の影響で振れが大きかった6～8月を平均しても、5月対比で▲0.1%とほぼ同水準であり、均してみれば横ばい圏内の動きにとどまる。8月の百貨店売上高が特に強いというわけではない。

### ○9月は自然災害の影響で落ち込む可能性大

このように8月にいったん持ち直した百貨店売上だが、9月は再び落ち込む可能性が高い。9月上旬に相次いで発生した台風21号と北海道地震では、それぞれ関西、北海道を中心に大きな被害もた

らされた。外出が手控えられたことによる売上減が生じたことに加え、営業を停止した店舗も多く、9月は下振れが避けられないだろう。また、インバウンド需要についても、関西国際空港閉鎖の影響で訪日客数の大幅減少が予想されるほか、北海道地震とその後の停電による風評被害を通じて悪影響が出るだろう。訪日消費はGDP上では輸出に計上されるが、百貨店売上高においては日本人、外国人を問わず、消費した分については売上高に含まれる。百貨店は他業態に比べて訪日消費に依存する度合いが大きい（シェア6.3%、8月のインバウンド関連売上は前年比+20.0%）ため、この部分が落ち込むことは、9月の百貨店売上にとってかなりの打撃になるだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

